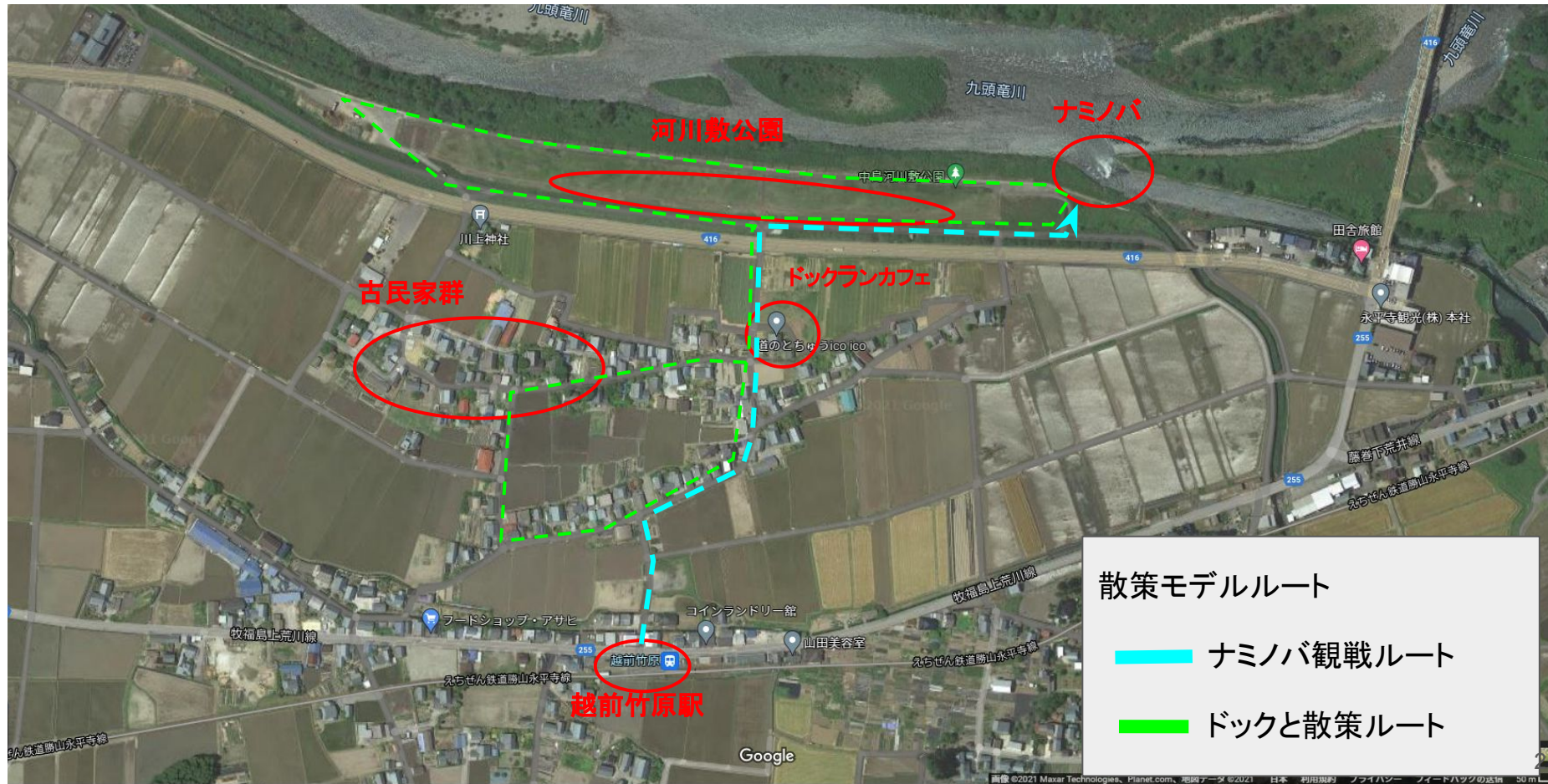


# ナミノバ・ステーション

チーム名：ナミノリドッグ



# 歩いた範囲



# 見つけたもの



# そのなかでもおもしろかったもの

珍しいカヌー競技と広大な河川敷



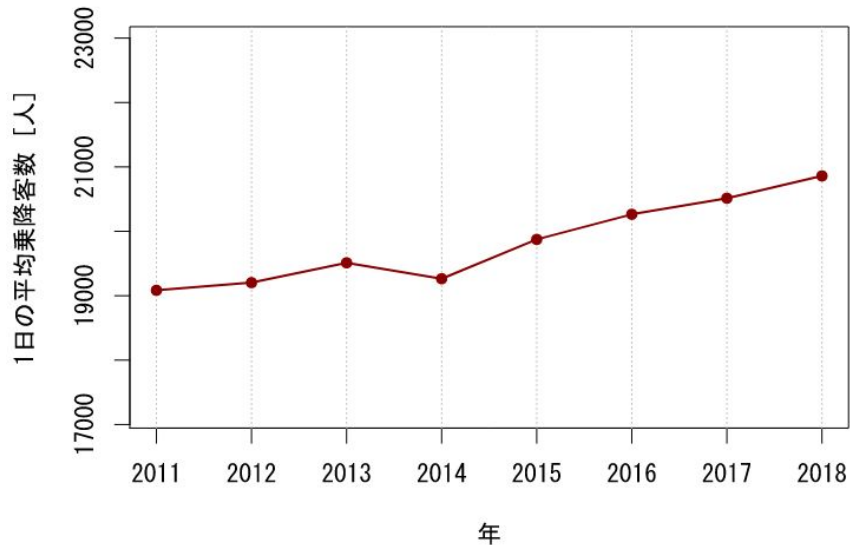
県外からも遊びにやってくるドックランカフェと風情ある古民家風景



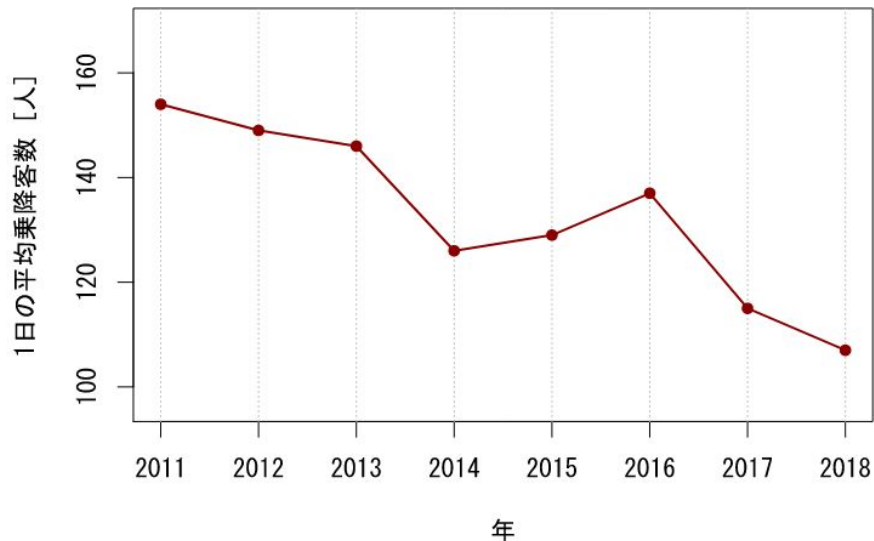
# そのなかでもおもしろかったもの

増える福井駅の利用者に「ナミノバ」を周知し、飲酒OKのために鉄道利用を促す

JR西日本 福井駅の乗降客数の推移



えちぜん鉄道 越前竹原駅の乗降客数の推移



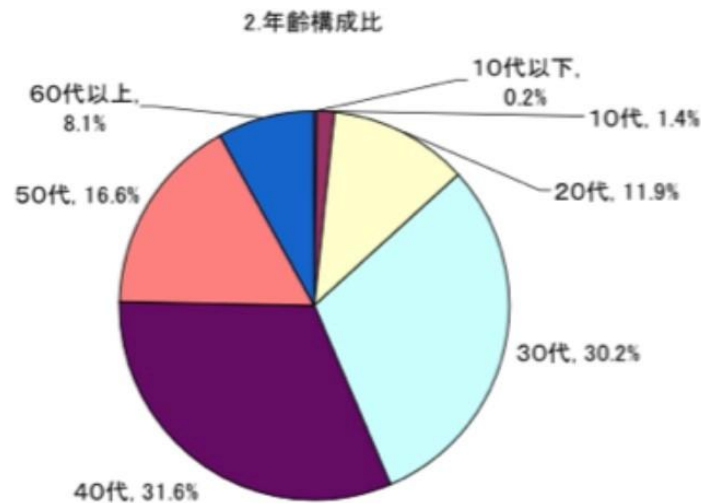
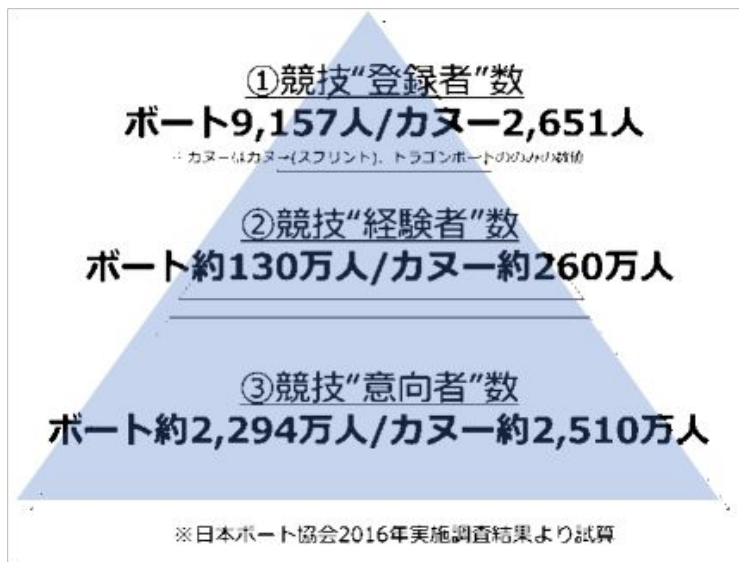
## こうなったらいいな

- ❑ 最寄駅である越前竹原駅でナミノバを最大限アピールしている
- ❑ お酒を飲みながらカヤックを観戦できるような場所になる
- ❑ ドッグラン利用者がカフェ周辺だけでなくナミノバまで訪れてくれるようになる



# 想定するニーズ

- ❑ ドッグランを利用する大きな割合を占める30～40代
- ❑ ナミノバを練習拠点にするカヤックのプレイヤー
- ❑ カヤックなどスポーツを観戦する観客



港区街づくり支援部から参照

## 仮説

- ①越前竹原駅をナミノバ駅に変更することで、最寄り駅であることをアピールできるのではないか。
- ②観客席を設置し夜にはライトアップすることで、夜でも練習ができ お酒も飲め、ナイトビジネスに繋がられるのではないか。
- ③ドッグラン利用者が多数いることを考慮し、河川敷や川にも犬が走り回れる整備が整っていれば相乗効果としてナミノバへの集客につながるのではないか。



## 実験のイメージ

- ①日常的にナミノバに足を運んでもらえるような仕組みづくり  
(駅名の変更、駅⇔ナミノバの導線、ナミノバ周辺ライトアップ、お酒提供等)
- ②春に予定しているフリースタイルカヤックの大会参加選手たちが中島集落へホームステイ
- ③カヤック大会にドッグラン等のイベントを併用











# 連携すべきパートナー

①日常的にナミノバに足を運んでもらえるような仕組みづくり

⇒道路管理者(道路上へのペイント)

⇒河川管理者(河川内のライトアップ)

⇒道の駅 禅の里(ナミノバ周辺で食事提供)

②春に予定しているフリースタイルカヤックの大会参加選手たちが地元集落へ

ホームステイ

⇒地元集落

③カヤックの大会にドッグラン等のイベントを併用

⇒古民家Cafe&レストラン 道のとちゅう ico\_ico(ドックラン)

# 次のステップは？

- ・カヤッカーたちのホームステイ

→ 将来のプレイヤーである子どもたちを泊める(教育旅行の受け入れ地域)

- ・カヤック留学(地元小中学に通いながらナミノバで練習する)・移住

※宿泊は地域の民泊もしくは空き家

- ・期間限定のカフェバーイベント

- ・カヤック観戦場の設置

- ・Xゲーム系のイベント誘致





## カヤック観戦場のイメージ

(イベント時)中の島に観客席を設置して、カヤックを観戦する。  
(平常時)ドックランスペースとして解放する。



# このプロジェクトによって解決される地域の課題

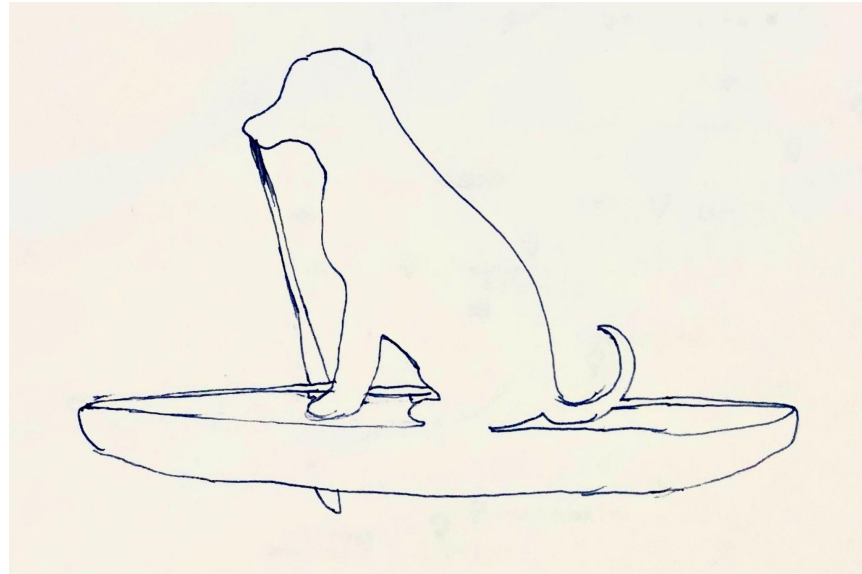
## <課題>

- ①商店、食事処、宿泊場所が少ない(地域にお金を落とすところがない)
- ②ナミノバと地域との接点がない

## <解決>

- ①越前竹原駅↔ナミノバ間の賑わい ⇒ 外貨獲得
- ②民泊による地域住民とのコミュニケーション強化





Thank you!

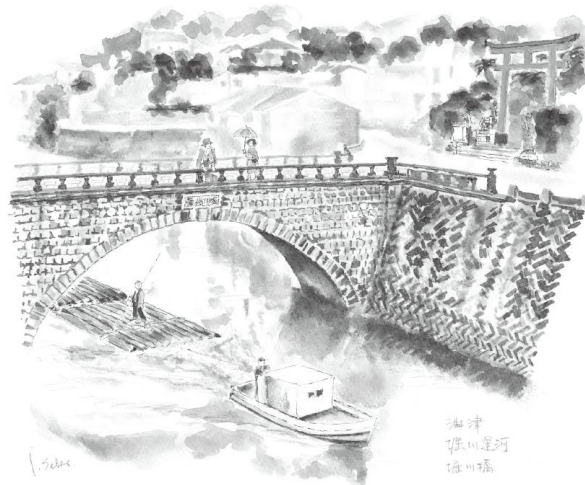
NAMINORI DOGS

# 速報！

# 会報 河川文化

第96号

発行日 2021年12月



和洋  
河川文化  
海川橋

## Contents

### 巻頭言

長良川おんぼくの10年

—川文化が人と人をつなぐ—

藤 勇介

「ワリス」河川文化を語る

藤 勇介

戦国武将・半田原清盛を決した坂堤

加来 耕三

### 結集「河川文化の歴史」

日本原いみぎの運河群

青木 義雄

再上流の歩み

青木 義雄

川沿造船船「RUI」にて

三輪 尚子

「川」ロッジと伊達ネツワーク

山 中 久 生

利根運河

林 秀 樹

—水運から希少動植物の時代へ—新保 國弘

山 中 久 生

都府陣跡りょう河川防犯かみた運河

山 中 久 生

半田運河の変遷

山 中 久 生

—港と新田—

山 中 久 生

松江城の堀と入ひとの暮らし

山 中 久 生

筑豊飯田の石炭輸送路—堀川 運河—

山 中 久 生

マレーシアの(河川文化)

山 中 久 生

—クアラカマタラツ空園—

山 中 久 生

川の本

山 中 久 生

落着く川学「川」はむすび

山 中 久 生

万葉の川巻 放生講

山 中 久 生

市民活動紹介

山 中 久 生

—上野市民会館と日本橋—

山 中 久 生

—水半町を流れる九龍川からタダリスを出す—

山 中 久 生

—パカソビレシ—

山 中 久 生

—新田川(河川)の歴史—

山 中 久 生

—歴史活動口説—

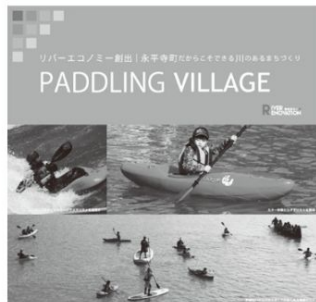
山 中 久 生

寄稿



# 永平寺町を流れる九頭竜川から メダリストを出す！

## パドリングビレッジ構想



田中 謙次

一般社団法人環境文化研究所 代表理事

### 1. はじめに

「水と緑と歴史に学ぶまちで、目指すはメダリスト！」  
これが、私たち「パドリングビレッジ構想」のコンセプトである。この構想を実現する九頭竜川は、岐阜県との県境にある福井県大野市（旧和泉村）の油坂峠付近に源を発し、坂井市三国町の三国港を河口とする延長116kmに及ぶ県内を代表する一級河川である。九頭竜川を抱える福井県嶺北地方は、日野川、足羽川、真名川など多くの吉川を抱えた流域で、その面積（2,020km<sup>2</sup>）は、福井県

は減少し、ポートの約1/3以下となる（図1）。これは、競技の難易度にもよるが、練習場の不備不足や指導者不足などが原因の一つと考えられる。



写真1 市荒川発電所放水路出口と吉峰川が合流し荒波が立つ。ブロックが顔を出し危険